

# リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた 人文学及び社会科学の振興について（報告案）概要

資料 1-3-1  
科学技術・学術審議会  
基本計画推進委員会  
(第5回) H24.7.24

- 社会の安寧と幸福に貢献すべき学術として、どのように人間・社会等に向き合い、研究活動を行うべきか、という設問に答えるべく、今後の人文学・社会科学の在り方などについて検討。
- 平成23年5月～平成24年6月まで9回の審議

社会に内包される問題に向き合うことを特に当面する緊急な課題と考え、3つの視点から課題を抽出・整理し、5つの推進方策を提言。

## 1. 人文学・社会科学の振興を図る上での3つの視点

急速に進む専門化を優先させて細分化に陥り、知の統合や分野をこえた総合性への視点が欠落していた。



### (1) 諸学の密接な連携

分野による方法論や価値観の違いが存在することを相互に理解し、お互いに補完し合うよう、十分に議論を行いながら研究を進める。

今般の災害や社会の高度化・複雑化を背景に、研究の社会的機能の発揮が期待されている。



### (2) 学術への要請と社会的貢献

研究者が多様な社会的活動に参画するとともに、社会の側に研究への参加を求めることで、社会的要請への積極的な応答を試みる。

母国語特性に固執するあまり、外国籍や外国由来の活動に対して消極的な対応も稀ではなかった。



### (3) グローバル化と国際学術空間

受身の形でグローバル化に対応するだけでなく、日本由来の学問領域を国際的な交流の場に引き出すことを責務の一つと考え、リーダーシップを取ることで貢献・寄与する。

## 2. 制度・組織上の4つの課題

### (1) 共同研究のシステム化

- 研究推進事業・制度の安定的・継続的な運営が必要
- 研究成果を社会実装につなげていくために、個々の支援事業の枠組みをこえてプロジェクトを展開していける仕組みが必要

### (2) 研究拠点の形成・機能強化と大学等の役割

- 多数の研究者の組織的な参画を可能とする拠点機能の活性化、拠点間の相互連携が不可欠

### (3) 次世代育成と新しい知性への展望

- 実社会と学術の関連性を追求する教育プログラムの実施が必要
- 適正な評価制度に基づいて人材育成を行うことが重要

### (4) 成果発信の拡大と研究評価の成熟

- 分野間で成果や評価の視点が異なることに留意。実社会からの視点を意識する必要
- 成果が出るまで長い時間を要する研究への挑戦も評価すべき

### 3. 当面講ずべき5つの推進方策

#### (1) 先導的な共同研究の推進

##### 【課題設定による先導的人文学・社会科学研究の推進】

- 下記の3つを目的とした共同研究を支援する枠組の構築
  - ・ 「**領域開拓**」を目的として諸学の密接な連携を目指す研究
  - ・ 「**実社会対応**」により社会的貢献を目指す研究
  - ・ 「**グローバル展開**」を目指す研究
- **評価結果に基づいて延長を可能とする支援の枠組**の構築
- 海外における人文学・社会科学の**学術動向の継続的な把握**
- **若手研究者支援枠の導入**
- 推進すべき共同研究の課題を設定

##### 【設定すべき課題の例】

- ・ 非常時における適切な対応を可能とするための社会システムのあり方
- ・ 社会的背景や文化的土壌等から発想する新たな科学技術や制度の創出・普及
- ・ アジアの協調的な発展を目指した科学技術の制度設計

##### 【事業・制度の枠組みをこえた展開】

- 「課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業」(JSPS)のプロジェクトの成果が自然科学にも貢献する場合における、**より実装段階に近い共同研究への波及**による更なる展開
- **科研費の「新学術領域研究」等における適切な評価**による更なる展開

#### (2) 大規模な研究基盤の構築

##### 【研究拠点の充実・強化・連携】

- 共同利用・共同研究拠点の取組状況等も踏まえた**拠点化への支援**

##### 【大型プロジェクトの推進】

- 研究者コミュニティの合意、実施主体、共同利用体制、計画の妥当性等を踏まえ、社会や国民の幅広い理解を得ながら、長期的な展望をもって戦略的・計画的に推進
- 例) 日本語の歴史的典籍のデータベース構築

#### (3) グローバルに活躍する若手人材の育成

- 優れた資質を持つ**若手研究者の海外派遣**
- 若手研究者の多様な**キャリアパス確立**に向けた取組
- 教員のグローバルな教育力向上、**学生の留学促進**のための環境整備、**海外の大学との教育連携**
- グローバルに活躍する**リーダーの養成**

#### (4) デジタル手法等を活用した成果発信の強化

##### 【国際情報発信力強化のための科学研究費助成事業の改善】

- 国際情報発信力強化のための取組の評価や、オープンアクセス誌の刊行支援などに向けた**科研費(研究成果公開促進費)の制度改善**

##### 【機関リポジトリの利活用等による教育研究成果の発信】

- 大学等における、**機関リポジトリの整備**、意義について所属する**研究者の理解を促進**

#### (5) 研究評価の充実

- **レビューの在り方の議論**を深めつつ、**人文学・社会科学の特性を踏まえて評価の項目を充実**
- 例) ・ 様々な成果発信やアウトリーチ活動
- ・ 漢学や日本語等における索引や目録の作成
- ・ 日本語希少原典の優れた文学研究の外国語への翻訳、国際共著論文、海外での研究活動等